

SDGs 未来都市「NARA」を構想しよう

奈良教育大学附属中学校 阿部孝哉

1. 単元の目標

- ・奈良市が今も将来も住み続けられるまち、過ごし続けられるためにどのような取り組みをしているか理解するとともに、奈良市が抱えている課題を資料から適切に読み取る技能を身につける。【知識・技能】
- ・奈良市が抱えている問題について、その背景や原因を適切に分析し、その解決策や代替案を考え表現する力を身につける。【思考・判断・表現】
- ・奈良市が抱えている問題に対して、どのような取り組みを進めれば解決できるか、またその問題解決に直接自分がかかわって何かできないか主体的に追究する態度を身につけている。【学びに向かう力・人間性等】

2. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①奈良市が今も将来も住み続けられるまち、過ごし続けられるためにどのような取り組みをしているか理解している。 ②奈良市が抱えている課題を資料から適切に読み取っている。	①奈良市が抱えている問題について、その背景や原因を適切に分析し、その解決策や代替案を考え表現している。	①奈良市が抱えている問題に対して、どのような取り組みを進めれば解決できるか、またその問題解決に直接自分がかかわって何かできないか主体的に追究している。

3. 単元について

教材観

本単元は平成29年告示学習指導要領 第2章 各教科 第2節 社会 2 内容 C 日本の様々な地域 (4)地域のあり方にあたる。本単元では、生徒自身が生活を送っている地域の特色を理解したり、地域で起こっている問題およびその背景を把握したりすることを通して、地域でみられる問題をどのように解決していくべきかを考え、構想したものを表現する力の育成が求められる。今回は本単元をSDGs未来都市の概念を取り入れ、教材化した。

SDGs未来都市とはSDGsの理念(=「経済の発展」・「自然環境の保全」・「社会環境の向上」の3つの柱の両立)を取り入れた、持続可能なまちづくりや地域活性化に向けた取組の推進をすすめ、SDGsを原動力とした地方創生への取り組みが認められた自治体に与えられる制度が2018年から施行された。SDGs未来都市に選定された自治体は「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」による民間企業とのマッチングの支援や、「地方創生SDGs金融」の推進などを享受できるということで注目を集めている。奈良県では、生駒市・三郷町・広陵町・十津川村が認定されており、SDGsの考えを取り入れたまちづくりが進められている一方、本校が所在する奈良市はSDGs未来都市に認定されていない。あくまでもSDGs未来都市に認定されることが目的ではなく、そのような取り組みを通じて市民のより豊かな生活を実現する手段として有効であろう。

生徒に未来のまちづくりを考えさせる際に、SDGs未来都市の概念を取り入れることで、また考えさせる際に学習を通して主に育てたいESDの資質・能力を意識した学習を展開することで持続可能な社会のつくり手として、地域社会を共創していく一員の自覚をはぐくむことができると思い本単元を設定した。

生徒観

本クラスの生徒は熱心に授業に取り組む生徒が多く、未知の知識や学習内容を積極的に吸収しようとする姿勢を感じ取ることができる。また、自分の意見や考えを表現する活動にも積極的に取り組むことができる生徒が多い。ただ、自分の解答に自信がないと静まり返ってしまうことがある。かねてから私は授業中のルールとして①（他人の考えを）「受容する」②（困っている人がいたら）「協力する」③（学級生徒のがんばりを）「賞賛する」といった3つのルールを提示し授業を進めているので、このルールに基づき、だれもが積極的に発言ができる雰囲気をつくっていくとともに、全生徒が知識を知識としてとどめておくだけでなく、知識を用いて意見を主張する力や判断力を育てていきたい。

指導観

今回取り組む内容は中学1年生の発達段階では難易度が高いように思われる。例えば、自分の生活しているまちが抱えている課題を、民意調査結果報告書等から適切に読み取り把握する活動や、見つかった課題をもとに新たな解決策を提案する活動である。これらの内容は一人で取り組むのは難しい。そこで、教員である私が机間指導を行い、手が止まっている生徒を支援したり、近くの生徒とペアを組んで課題に取り組みせたりなどして、すべての生徒が課題に挑戦できるような工夫を施したい。

また、生徒は公民的分野の学習をしていないことから、市の仕事と企業の仕事の分別がつかず、市に提案しても解決に至らない場合が想定される。そのため、生徒の提案が市の業務の範疇であるか、教員の方で適宜確認をすることが求められる。

4. ESD との関連

4-1 学習を通して主に養いたい ESD の視点

- ・相互性：若者も高齢者も、地域住民も観光客も過ごしやすい市にするためにできることを考える。
- ・公平性：今もこれからも住みやすい市であるために今できることを考え実行したり、自分たちではできないことを行政に提案したりする。

4-2 学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

- ・批判的（代替案）思考力…奈良市が行っている施策を批判的にとらえ、よりよいまちづくりにどのような施策が求められているか、また自分自身にもできることはないか考え表現する。
- ・長期的思考力…奈良市に関するデータを分析し、これからも奈良市が住民や観光客にとって過ごしやすいまちであるために必要とされる施策は何か、また生徒自身がどのような行動をおこせば過ごしやすいまちになるか考え、行動に移そうとする。

4-3 ESD で育てたい価値観

- ・世代間の公正を重要視する価値観…奈良市が将来の世代にとっても過ごしやすい町にするために自分たちにもできることはないか考え提案書をつくる活動を通して行動に移す。

4-4 貢献できる SDGs

8…奈良市に観光に来る方々の声を聞くなどして、経済的な面でも発展をしていくことが、持続可能な社会づくりにつながる。

11…地域住民にとって住み続けられるまち、観光客にとって魅力のあるまちをつくるために求められることは何か考える。

17…奈良市で生活する一員として地域の方や行政の方などと連携・協力してよりよいまちをつくろうとする姿勢が大切である。

5. 学習活動の概要（全5時間）

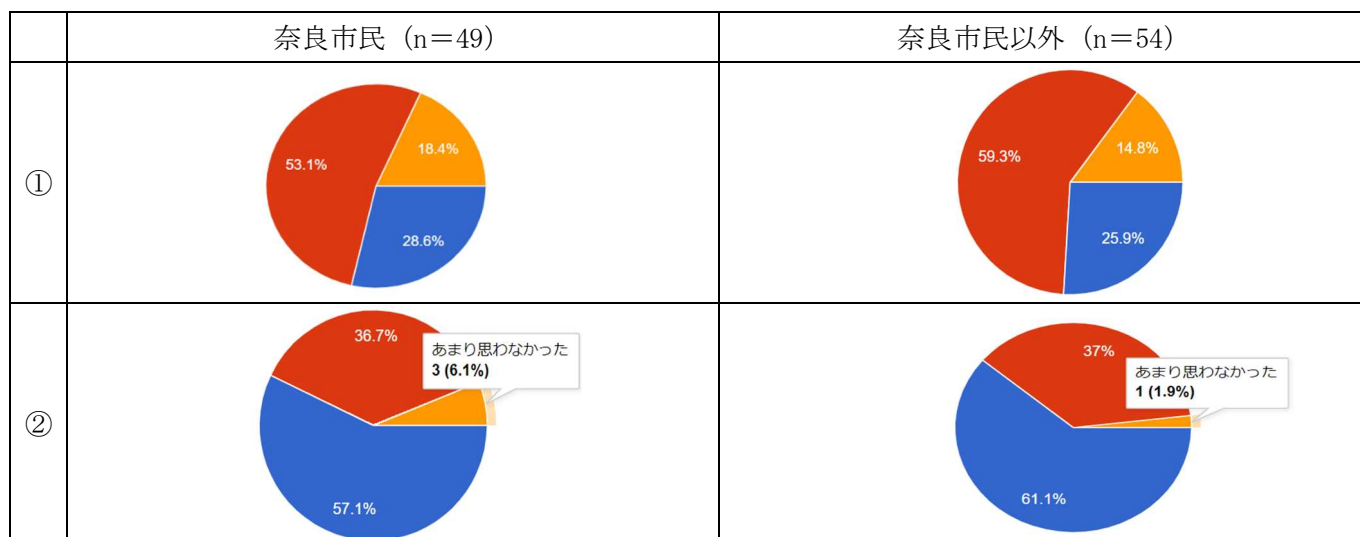
時間	主な学習活動	学習への支援	評価
1 総合	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市についてのクイズに答える。 ・本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたいまちランキングや住みやすさランキングについて取り上げ、奈良市がどのようなまちとしての印象が持たれているか確かむ。 	ア-① (WS)
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">生活しやすいまちをつくるために奈良市はどんな取り組みをしている？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市の取り組みについて、奈良市公式HPなどを参考に、「暮らし」「市民活動・文化・スポーツ」「子育て・教育」「福祉・医療・保健・健康」「産業」「観光」の中から2つ～3つ選んで調べ、わかったことをプリントに記入する。書いたらペアで共有する。 ・調べた取り組みをSDGsの観点で分析し、プリントに記入する。 ・調べたことを発表する。 ・奈良市の取り組みによって生活は豊かなものになっており、結果としてSDGsの取り組みにもつながっていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、進め方がわからない生徒の支援に入る。 ・机間指導を行い、進め方がわからない生徒の支援に入る。 ・各学級1人調べたことを発表してもらうので、各学級で発表してもらう人を決めておく。 ・あくまでもSDGsの達成を念頭に置いて取り組みが行われているのではなく、奈良市で生活を送る人の安心・安全な生活を念頭においてのことであると強調する。 	
2 総合	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 未来都市について説明を聞く。 ・奈良市がSDGs 未来都市に選ばれていないことを気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県にもSDGs 未来都市があることなどを説明する。 	ア-② (WS) イ-① (WS)
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">よりよいまちにするために奈良市が抱えている課題を分析し、解決策を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 奈良市民意識調査結果報告書 p14～p51・p58～p66 をみて奈良市が抱えている課題を把握する。 ・資料を読み取ってわかったことを発表する。 ・見つけた課題の原因とその課題を克服するための施策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、活動が停滞している生徒の支援を行う。 ・報告書に書いていないことでも保護者の方から聞いたことなどあれば記入するよう指示する。 ・机間指導を行い、活動が停滞している生徒の支援を行う。 ・その施策を行うことで誰がどのような面で得をするのかに重点を置いて考えさせる。 	

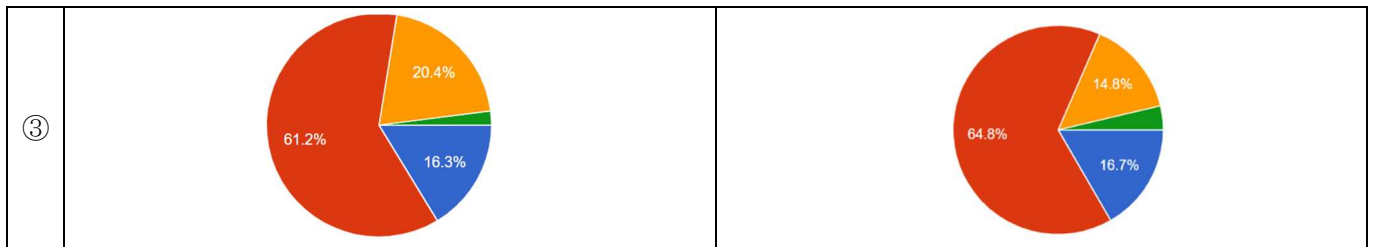
	<ul style="list-style-type: none"> 併せて SDGs の何番の達成に貢献できる可能性を秘めているか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 併せてほかの SDGs 都市の概要がわかる資料を提示、参考にして考えるよう指示する。 	
3 4 社会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">SDGs 未来都市「NARA」を構想し、計画書を作成しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 前回の時間で調べてまとめた奈良市の課題と解決策を班で共有する。 発表の中から一つ問題を決めて、その問題の解決策を考え直す。 Chrome book を用いて計画書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画書を作成する際に必ず記入してほしい内容について説明する。 	ウ-① (WS)
奈良市役所 総合政策課に提案書を提出			
5 社会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">作成した計画書をコメントと関連付けて発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 奈良市役所総合政策課の方からいただいた意見をもとに計画書を修正する。 修正した点をもとにほかの班に対して作成した計画書を発表する。 		ウ-① (WS)

6. 成果と課題 (第5時は3月中に実施予定です。)

第4時の授業を終え、奈良市の総合政策課の方に計画書を提出した後、以下の4つの設問に回答するよう指示した。この授業を終えて、①「計画案を作り市に提出したことで、学校生活を送っている奈良市の一員としての自覚が生まれましたか。」②「計画案を作ってみて、よりよいまちをつくるために自分ではできないことを提案することも大切だが、自分でできることは自分でする必要があると思いましたか。」③「今後自分が住んでいる地域をよりよいまちにするための、何らかの活動があれば参加してみたいと思いましたか。」④「一連の活動を終えて何か感想があれば記入してください。」である。①～③の設問では、「●とても思った」「●●思った」「●●あまり思わなかった」「●●思わなかった」の選択肢から一つを選ぶ方式で、④の設問では記述式で回答してもらった。回答結果は以下の通りであった。

※数名の生徒が回答箇所を誤り、2回同様の内容で回答したため、回答が重複している。





この実践を通して得られた成果として、奈良市民である生徒もそうでない生徒も、活動前と比較して活動後に奈良市について見識が深まったことである。アンケートの①の設問より、「奈良市民としての自覚が生まれたと思った」生徒は両者とも全体の80%だった。このことから多くの生徒は、「なんとなく奈良市で生活している」という価値観から、「地域の一員として奈良市で生活している」といった価値観を持つことができたといえるだろう。生徒は初めて奈良市の公式HPから奈良市がどのような取り組みを行って住民の生活を支えているかを理解することができた。また、その取り組みを広い視野でとらえることで市の取り組みがSDGsにもつながることに気づくことができ、普段から社会科の授業でSDGsの視点を取り入れた授業を受けている生徒にとっては、身近なものに感じられるようになった。これらのことが地域の一因としての自覚の萌芽に寄与できたことの表れと感じる。その一方で、この授業以上に生徒達が学校行事である「奈良めぐり」に参加し、奈良市のことをよく知ろうとするきっかけを得たことが、本学習のはずみになったことも大きな影響を与えたといえる。実際に地元の方々の声を聞き、地元の魅力に気づくとともに、切実性のある話を耳にして「このままではいけない」「私たちが何か行動を起こしていかなければならない」というように心を揺さぶられた生徒も多くいた。この奈良めぐりと本実践をカリキュラム上で融合できたことで生徒の価値観の変容を促せたと感じる。この価値観の変容はアンケートの③の設問からも読み取ることができる。アンケートの③の設問より、「今後自分が住んでいる地域をよりよいまちにするための、何らかの活動があれば参加してみたいと思った」生徒は奈良市民でも、奈良市民以外においても全体の75%以上と高い数値であった。この結果から奈良市の一員として地域の活動に参加するということへの関心が高まったといえる。

その一方で、ESDの視点で大切にしたい項目である、「行動の変容」については、その片鱗のみしか見取ることができなかった。アンケートの②の設問をみると、よりよいまちづくりには自らできることを自ら率先していくことが大切と考えている生徒が大半を占めていることがわかる。ここでいう「自らできること」は大きく2種類あると考える。1つ目は行政に主導して行ってほしいことを提言することである。自らの努力でできないが改善してほしいことについては、見て見ぬふりをする市民より、役所に提言できる市民の方が幾分望ましい姿であるだろう。2つ目は自らが実際にできることを主導して行動に移すことである。本実践では1つ目のことができる市民の育成には取り組めたが、2つ目のことができる市民の育成にはつながらなかったと感じた。もちろん、現在の生徒がさらに成長して、実際に何らかのまちづくりに貢献する青年になっている可能性もあるので、その答えはまだわからない節もあるが、行動化までは至らなかったように感じた。本実践に関連するカリキュラムとして、道徳で「あった方がいい？」という文章を通して、公共の場をみんなが気持ちよく使えるにはどのような心持ちが必要かということを生徒は学習済みである。その中で、「ゴミ箱」がなくても、より良い公共の場をつかっていくには一人一人がどのような行動をとるかが大切であることを生徒たちが学ぶことを最終的な目標とするものであった。この道徳の授業を受けた生徒がつくった計画書をみると、ありとあらゆるところに「〇〇を快適な場所にするためにゴミ箱を多く設置するべきだ」といったような、生徒自身ができることにはふれず、役所にすべてをゆだねているような内容が散見された。これは、「自分で出したごみは自分で持ち帰る」などのことがわかっているにもかかわらず、いざ解決となるとなると自らの行動よりも他に任せてしまうといった意識がまだ残っているように感じた。よりよいまちづくりをするにおいて、役所に提言する意識と自らでできることを自らする意識、双方の態度を備え合わせた市民の育成という視点では、少し足りないものであったと感じる。また、本実践は中学1年生を対象に実践をしたが、発達段階を踏まえると2

年生・3年生で実施する方がより深い学びになりうるのではないかと思った。その理由として、生徒の中で「奈良県の業務」「奈良市の業務」「企業の業務」の分別がついていないことが挙げられる。計画書を作成する途中で市と学校とを混同して支離滅裂な文章が見られた班もあった。この区別をさらに明確にしたうえで作業に取り組みさせる必要があったと思う。例えば、さらに授業時間を1時間追加し、「奈良県の業務」「奈良市の業務」「企業の業務」の分別を行い、それぞれの業務について理解する活動などを取り入れるなどの工夫があれば理解できたのではないか。また、学級というさらに小さな社会での生活を顧みる前に、いきなり学校内と学校外を結び付けた活動になったことも生徒に難しさを感じさせる要因となったとも考えられる。1学期では学級という小さな社会の中の生活をどのように送るかを考える学習活動を展開し、2学期以降に学校という社会、3学期に学校外の社会というように段階を踏んで生徒と学校外の社会をつなげることができればよかった。

他の課題としては、計画書の作成等の流れが教師主導になってしまったことが挙げられる。生徒はいざ活動となると、主体的に活動に取り組んでいたが、それまでの流れが教師主導であった。この流れをも生徒が自ら組み立てていき、教師がファシリテーターとして関わることであれば生徒に行動の変革を促すこともできたと思うので、授業1時間当たりの構成をさらに綿密にし、生徒の内発的な動機付けを促せるものにせねばならないと思った。まとめをさらに充実させることも必要だと感じた。今回は計画書を作成し奈良市役所に提出するという形式で生徒に社会参加させる体験ができたが、提案した後はその内容を市に任せっきりになってしまう点で課題がある。生徒が自らまちづくりに貢献するといった、自らの行動がまちをかえるといった体験にまでつなげることができればなおよかったと思うとともに、そのような提案が計画書内でなされれば理想の実践にちかづいたのではなかろうか。

最後に、学習活動を終えた生徒（A～F）の感想の一部を紹介する。

- A 今までなんか奈良なんにも遊ぶものないしな〜とか文句だけいっていたけど、これをやって少し自分たちでできることも考えないといけないなと思った。
- B 奈良市民として暮らしていて、「不便だな」「改善しないかな」と思うことはあっても、実際に自分のこととして考えて誰かに発信してみたことはなかったので、難しかった。ホームページや市民の人の声を調べてみると、改善しようとしても発生する課題があって、その解決のためにはもっと奈良市を調べて、私が調べた交通の面ではだいぶ詳しくなれたと思う。改革案を考えることで、SDGsにも繋がったと思う。
- C 奈良市の問題は思ったより深刻な部分があることを知れた。解決案を考えるのが難しかった。
- D 奈良市はいつもいるところだから、あまり周りを気にしていませんでした。けど、今回の活動を通して、危機的な部分や問題点が結構あったので、気づけてよかったです。
- E 初めて自分の生活している街のために考えて、実際に市に出しました。ただ考えるんじゃなくて、それを出したから少し怖かったです。けれど人の役に立つかもと考えると、嬉しかったです。
- F そもそも、奈良市民ではないですし、特になにも感じませんでした。すいません。でも、ほんとに何も思いませんでした。それよりも、荒井さんがつくった、大量の税金を費やしたバスターミナルのほうが、奈良県にとってお荷物ではないかと思えます。

A～Cの3つが奈良市民の生徒、D～Fの3つが奈良市民以外の生徒の感想である。これらの感想文からも生徒たちは活動を通して、自分たちの生活している奈良市への価値観は変わったように思う。あとはこれを実際に自ら行動に移す段階に進めば、実践した成果となるだろう。その一方、最後の感想文にあるように、奈良市民でない生徒の奈良市に対する意識を向上させるのは難しい面があることがわかった。自ら住んでいる町への提案を自らするといった応用的な学習を次学年で取り入れるなどの学習活動があってもいいと思った。

課題は山積みであるが、現在の学年終了時に目指す姿である、「地域社会をつくる一員としての自覚を持ち、地域で起こっている問題を自分事としてとらえ、その問題を解決するために資料などの情報を適切に分析し、必要な方策や代替案を提案することを通して地域社会に参画する態度」の育成に少し近づいたと思う。

現在の学年終了時に目指す姿

- ・地域社会をつくる一員としての自覚を持ち、地域で起こっている問題を自分事としてとらえ、その問題を解決するために資料などの情報を適切に分析し、必要な方策や代替案を提案することを通して地域社会に参画する態度を身につける。

関連するSDGs



問題も山積みだけど
もっと奈良市をよくなる
チャンスなのかな。

総合的な学習の時間 地元を学ぶ

- ・奈良市を住民や観光客にとってより過ごしやすいまちにするために市がどのような取り組みをしているか理解するとともに、住民や観光客の声などから奈良市が抱えている問題を把握し、その解決策を考え表現する。

社会科 SDGs 未来都市「NARAI」を構想しよう

○主に養いたいESDの資質・能力

- ・クリティカルシンキング…奈良市が行っている施策を批判的にとらえ、よりよいまちづくりのためのような施策が求められているか、また自分自身にもできることはないか考え表現する。
- ・長期的思考力…奈良市に関するデータを分析し、これからも奈良市が住民や観光客にとって過ごしやすいまちであるために必要とされる施策は何か考える。

○主に育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正を重要視する価値観…奈良市が将来の世代をも住みやすい町にするために自分たちにもできることはないか考える。

次は自分たちがまちの
良さを受け継がないとま
ちがつかれない…

総合的な学習の時間 奈良めぐり

- ・奈良市をはじめとするまちの魅力を、五感を通じて体験するとともに、それらを形づくりに受け継いできた方々の声を聴き、その魅力の正体や現在抱えている問題を、切実性を持って理解し、自分にできることはないか、主体的に追究する。

奈良市で過ごす人の
ためにたくさん仕事を
してくれているんだ！

自分の心かけ次第で
住みやすい町にできる！

道徳 「あってほしい」。

- ・公共施設にゴミ箱がなくて困った事例を通して、ゴミ箱の有無以前に「自らの心かけ次第で住みよいまちをつくる」ことはできないか、考え表現する。

今の市があるのは地域
の人々の支えがあつての
ものなんだ！